

## 2023 年度 学校評価のまとめ ～グリーン・ヒルズ小学校・中学校～

### 1. 本年度の学校評価への取り組み

学校法人いづな学園グリーン・ヒルズ小学校・中学校は、併設校ではあるが、合同の特別活動や合同の行事が多く、また学校法人としての教育理念の元に教育活動を展開しているため、小中を区別せずに保護者、教職員、第三者の評価を実施した。

《学校評価の流れ》

2024 年 1 月 保護者アンケートの実施

2024 年 2 月 保護者アンケートを受けての自己評価

2024 年 3 月 保護者評価結果の報告(保護者向)、学校職員の自己評価実施、保護者評価及び自己評価結果を第三者評価者へ提出、全体評価をいただく

2024 年 5 月 理事会及び評議員会で内部評価及び外部関係者評価結果を報告

2024 年 9 月 ホームページに公開

### 2. 自己評価

学校内での職員会及び教育課程別検討会(小学校会・中学校会)において、保護者アンケート結果を元に自分たちの教育活動の振り返りを行い、今後に向けての取り組み内容を話し合う機会を設けた。

### 3. 外部関係者評価

今年度の評価者は、地域から1名(区長)及び学校教育活動に協力して頂いた方1名(特別講師)の計2名に依頼した。それぞれが保護者アンケートの結果を踏まえながらも学校を訪れた際の感想を含めた評価となっている。活動報告を行い、聞き取り調査を行う中で、学校運営や広報についてのご意見を頂いた。今後活かしたい。

### 4. 今年度の成果と来年度への課題

今年度は、小学校課程における国際バカロレア(IB)認定校審査を受ける重要な年であったので、中学校を含めて「探究学習」及び「学習指導要領と IB プログラムとの整合性」について、実践型野外活動プログラムを加味した本校独自のカリキュラムと学習指導に集中した。基礎学力の醸成は昨年度からの大きな課題であり、学習指導要領を紐解く作業は大変であったが、職員には手ごたえのあるものとなった。また、曖昧となっていた基礎学力の評価も、国際バカロレアの評価システムを応用することでフレームワークができつつある。一方で本校の「自由教育」「教科書のない学校」を気に入って子どもさんを入学させた保護者にとっては、新しい変化を受け入れがたいという評価を得ている。

来年度に向けては、国際バカロレア認定校となって初めての年となることと、本校の新たな教育方針を受け入れる保護者が増えるため、職員の協働による実践をさらに進めたい。

2023 年度 グリーン・ヒルズ小学校・中学校  
学校評価のまとめ

A:評価できる B:やや評価できる C:やや評価できない D:評価できない

項目		評価			
		保護者	内部	外部	
達成の 教育目標	1	先生は、子供の学習に対する自立性を確立できる教育を行っている。	A	B	B
	2	先生は、子供達が助け合い、お互いのことを考えられる関係性の確立を目指している。	A	A	B
教育課程の 満足度	3	グリーン・ヒルズは子供達が自ら学習したいと思える活動を提供している。	B	B	B
	4	グリーン・ヒルズは子供達が自ら学習したいと思える活動を提供している。	B	B	B+
	5	グリーン・ヒルズは子供達が担任や友人との信頼関係が構築されている。	A	A	B
	6	グリーン・ヒルズは子供達が満足する学校生活を提供している。	A	B+	B
保護者の 意見（一部）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と保護者が学校の取組みや方向性、保護者それぞれの考え方について、もっと率直に、ざっくばらんと意見交換する機会があってもいいと思います。保護者と学校とがじっくり対話をしながら学校を子どもおたちのためにより素晴らしいものにしていくために、お互いに何ができるか、率直に話してみたいです。</li> <li>・子供が大自然の仮名の学校生活を気に入っており、自然を美しく思ってくれており、健やかに育ち学びを楽しんでいることは日々感じております。</li> <li>・クロスカントリーやスキーの回数が徐々に減ってきているのはせっかくの立地なのにもったいないと思います。</li> <li>・ホームページに卒業生の進学先を一覧にして掲載してほしい。</li> </ul>				
内部評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領とIBプログラムの整合性をとっていく作業はとても大変だったが、教育者として学ぶことが多々あった。今後はそれを実践していくことであるが、教材研究や準備にどれだけの時間がとれるのか、などの不安もある。</li> <li>・本校の新たな教育方針に納得されない保護者さんとの対話はなかなか難しかった。そのために、学校評価も個人単位でみると大きく二層に分かれていると感じる。IB認定校になることが転機となり、保護者の理解と協力が得られるようになることを願い、またそうなるようにできることを模索したい。</li> </ul>				
外部評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者評価からは、国際バカロレアへの教育方針の転換について、まだ不満が残っている。転機を迎えている学校としては仕方がないが、さらに保護者の理解を得られる努力が必要である。</li> <li>・教師の教科指導の課題として、①各教科の特性を理解した上で、教える内容、考え合う内容が指導者自身が明確となっていないことがある。②子どもたちの学習意欲にとった単元展開より、教師の考えの流れにそった展開となることがあるので、さらなる教師側の研鑽を重ねることで、指導力が上がると考える。</li> </ul>				

【次年度の重点目標】

1. 引き続き、基礎学力の定着について、探究学習に組み込む手法を検討する
2. 本校で学びたい(学ばせたい)と願い入学する生徒を増やす
3. 保護者との対話の機会を意図的に増やす